

令和7年度 こども園（保育園）関係者評価
園評価・評価委員最終評価シート
子育てセンターきぶね

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価
評価日時： 令和8年2月17日 13:30～

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

みんなの中で一人ひとりが生き生きと

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した
こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

人との関わりの中で自ら考え、生活や遊びを展開できるよう、環境を通して主体性を育みます。

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価		評価委員最終評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由（評価委員から）
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	4	<ul style="list-style-type: none"> ・グランドデザインについて園内研修や経営書や園内掲示を通して、常に意識しながら教育・保育を行うことができている。 ・重点目標について、園内研修やカンファレンス等で話し合いや振り返りを行い、取り組むことができた。 ・来年度は重点目標の内容の視点を絞り、園全体で教育・保育の質の向上を目指していきたい。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度の保護者説明会にて、グランドデザインについてや、園の目標や内容についてきちんと説明されていた。また、厚生会の大切にしている7つの活動や育ってほしい10の姿につながる教育・保育を実践してくれていることが分かる。 ・子どもの「やってみよう」の気持ちを大切にしながら取り組んでいる。 ・職員がグランドデザインをよく理解し、日頃から教育・保育に一生懸命に取り組んでいるのが分かる。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもと保育」の書籍を活用し各年齢や発達に合わせた教育・保育を見直し、環境を整えていった。教育・保育の課題を、定期的に職員間で話し合い、振り返り、計画的に実践に生かしていた。各年齢の発達の学びを深め、子どもたちの主体性を大切にしながら、発達の見通しを持ち連続性のある教育・保育ができるようにしていきたい。また、話し合いやカンファレンスの時間を定期的に設け、職員同士で振り返りや意見交換を密にし、教育・保育の質を高めていきたい。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画等の教育・保育計画が細かく立ててあり、書籍等を活用し職員が教育・保育について勉強をしているのが分かる。 ・子どもの成長の段階や興味関心に合わせた遊びの環境等を整えてくれている。 ・計画を、都度子どもに合わせて見直している。 ・季節や行事に合った製作物を作ったり、園内の環境を整えたりしている。 ・反省がたくさんあるということや、話し合いをもっとしたいという気持ちは、教育・保育に対してもっと前向きに取り組んでいきたいという向上心や意欲の表れである。

<p>Ⅲ. 子どもにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. あなたらしさが認められる 2. 安心してすごせる生活 3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人ひとりの気持ちに寄り添うことを意識して教育・保育をした。 ・送迎時や連絡帳を通して保護者とのコミュニケーションを図り、子どもの健康観察を丁寧に行い、安心、安全に過ごすことができるように努めた。 ・公開保育を通して、色々な視点で遊びや環境を見直し、子どもたちの年齢や発達に合わせた環境作りや保育実践に繋げていった。 ・異年齢での関わりを通して、子どもたちが自然と関わり育ちあう機会となっている。 ・地域の方による絵本の読み聞かせや魚の解体ショー、学生ボランティアなどを通して、様々な世代の方との交流を図ることができた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や遊びの中で異年齢の関わりができるので、大きい子に憧れを持ったり、小さい子に優しくする気持ちが育まれている。 ・子どもたちが「わくわく」「ときどき」「やってみたい」という気持ちを大切に過ごせるように、研修を通して学びを深め実践されていた。 ・怪我をした時に、原因となったことにすぐに対応策を施してくれて保護者として安心することができた。 ・送迎時担任以外の職員も声を掛けてくれることで、全体で見守ってくれている様子が伝わる。また、楽しく生き生きと園に通う子どもたちの姿から、園の先生たちとの関わりを実感することができた。
<p>Ⅳ. 家族にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気軽に話ができる 2. 教育・保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 教育・保育を通して地域に親しむ 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログは更新頻度を増やし、園の様子や活動をその都度で発信できるように努めた。クラスによっては更新に偏りがあったため、園全体のバランスを考慮し計画的に発信できるようにしたい。 ・懇談会では写真を使って園の子どもたちの様子や教育・保育の中で大切にしていることを伝えた。また、保護者同士で話し合い、情報交換の場となり、子育てについて考える機会となった。 ・保護者が保育参加や行事に参加する機会を設けることで、子どもの成長を共に共有できた。 ・職員間で連携を取り、日々の保護者とのコミュニケーションを心掛けた。送迎時間が様々であったり、価値観が多様化しているため、信頼関係を築く事が難しい家庭もある。連絡を取る方法を家庭に合わせて工夫し、園と家庭と一緒に子育てできるようにしていきたい。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログも昨年より更新は多く、自分の子が載っていないことも写真があることで活動の様子がよく分かる。 ・なかなか他の保護者とゆっくり話せるタイミングがないが、懇談会で保護者同士意見交換ができ、有意義な時間となった。 ・保育参加や行事を通して、子どもたちが楽しく過ごしている様子が知れたり、職員も一緒に成長を見守ってくれていることが嬉しいと感じる。 ・アンケートから、安心して預けられていることがよく分かった。中には様々な意見の保護者もいるが、子どもが園を楽しめるように、子どもを育てることが大切である。そして、子どもの成長を通して理解を深めてもらうことが必要である。また、園と家庭の連携の大切さを保護者側にもしっかりと伝えていくことが大切。
<p>Ⅴ. 地域にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容及びよくわかる 3. 困った時に頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の回覧板やHP、玄関掲示等を利用し、子育て支援ひろばの情報を提供し地域の方が気軽に利用できるように工夫し、子育て相談や離乳食講座等を開催し、必要な情報を発信していった。今後、利用者に必要な情報が届くよう支援の計画をしていきたい。 ・浜北4か園の親子ひろば合同で、地域の方に利用していただけるよう、プレ葉ウォーク浜北にて「こあらの広場」を実施し、子育て支援の場を提供していった。 ・学生ボランティアが参加できる機会を設け、子どもたちとの交流を通し、保育の仕事を知ってもらうことができた。また、中学校で職業講話を行い保育の仕事、福祉や子育てについて考えてもらうことができた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが学生ボランティアのお兄さんお姉さんの名前を覚えて家で話してくれ、遊んでくれることを楽しみにしていた。兄弟がいなかったり、祖父母が遠方にいたりしても、園で様々な世代の方との交流があり有難く思う。 ・親子ひろばは、ブログやHPで写真があると分かりやすく、利用しやすい。 ・職員や保護者だけでなく、地域の人と関わる事は子どもにとって大切な経験となる。また、地域の大人も子どもと関わることで元気をもらっている。 ・地域の小学校や老人クラブ等へ積極的に関わり掛けて交流をできるようにすると良い。
<p>Ⅵ. 保育者にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個性がいかされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な年代の職員がいる中で、それぞれが自分の得意分野を生かしながら教育・保育を行っている。互いにコミュニケーションを取り、必要な情報の報連相を行い連携を図った。 ・ノンコンタクトタイムを取り入れ、園全体で協力し必要な仕事を優先的に行うことで、勤務時間内に仕事を行う協力体制ができてきている。 ・積極的に研修や会議等に参加し、専門的な情報や学び、深めることができてきている。また、職員会議の中で水平展開し情報共有した。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・多忙な中でも、子ども一人ひとりに寄り添い、忙しさを見せず笑顔で対応してくれている。職員のワークライフバランスも大切に、働きやすい職場になるように頑張ってもらいたい。 ・運動会、発表会等の行事を通して、子どもの成長を喜び共有することができている。今後子どもたちのために継続してほしい。 ・日々子どもを相手に、保護者の対応にと大変なことは多いだろうが、様々な環境の子を良い方向に導いてほしい。 ・子どもを育てる職は、研修を欠かさず、積み上げて行くことが大切である。時間のない中でも、話し合いや情報共有していることは良いことである。